

名古屋手をつなぐ育成会

名古屋手をつなぐ育成会にお邪魔しました。

場所は地下鉄伝馬町駅から徒歩 5 分、熱田郵便局の東側にあります。

濱田智恵実副理事長と奥村幸子熱田区育成会会長に案内していただきました。

名古屋手をつなぐ育成会は、西区菊井中学校の教員と知的障害がある子どもを持つ保護者が「わが子が教育を受けられた喜びをすべての子にも」という願いのもと、「名古屋手をつなぐ親の会」として昭和 29 年に発足しました。平成 10 年に会の名称を現在の「手をつなぐ育成会」としました。来年は 70 周年を迎えます。



ここ熱田区には、法人の本部があり、知的障害のある人たちがすべてのライフステージにわたって地域で安心安全な暮らしが送れるよう啓発活動、親たちの学び、ヘルパー派遣、福祉事業所の運営等各種事業に取り組んでいます。

サポートセンターbeing あつた

知的に障害のある人たちの地域での安心安全な普通の暮らしの実現と豊かな日中活動を行えるよう生活介護事業を行っています。現在 30 名程度の方が通っています。染めや絞りの手ぬぐい作成や景品の袋詰め、軍手の再利用等に取り組んでいます。



作業場の様子

皆さん元気にあいさつをしてくださいました。

いこいの家

発達に心配のある乳幼児を対象とした親子で通う場所で親子遊び、体操、遊具遊びを実施しています。

年間行事として運動会、クリスマス会、遠足等があります。

また、専門家による言語相談会、音楽療法等も実施しています。



グループホーム

特別に見学させていただきました。定員は10名で現在8名の方が共同生活をされています。おしゃれなシャンデリアが印象的でした。



知的障害者の理解に向けて

まだまだ知的障害者に対する理解が十分にされていない現状があります。外見からはわかりにくい人もいますので周囲から障害を理解してもらうことが難しい場合があります。危害を加えられるのではないかと誤解している人も多いとのこと。

自分のことを決めることができなかつたり新しい環境や体験に混乱してとまどいパニックになって大声をあげてしまったりする場面があるので、そのような場合は、ゆっくりと分かりやすい言葉で落ち着いて関わってほしいとのことでした。

育成会の目標としては、親が亡くなった後でも地域の中で安心して生活していける世の中にしていくことです。

皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



(左) 奥村熱田区支部会長 (中央) 福祉部長鳥谷 (右) 濱田副理事長

<知的障害がある人の特性>

- ・ 社会生活の参加がしづらい
- ・ コミュニケーション力が弱い
- ・ 抽象的な概念、複雑なことは理解しにくい
- ・ 集中力が低い
- ・ 自己コントロール力が弱い
- ・ 状況を判断するのが苦手
- ・ 読み書きや計算が苦手 など

障害のある人を理解し、配慮のある接し方をするためのガイドブック

「こんなときどうする」より

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-2-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>